

豊川市水道事業発注工事 －標準仕様書－

令和~~7-6~~年~~4-6~~月 改定

豊川市上下水道部 水道整備課

第 2 編 管布設工事編

第 1 章 管布設工事

第 1 節 施工一般

1 掘削工

- (1) 既設管付近及び仮設管の撤去において、掘削を行う場合、管頂部 10cm 以下の部分については人力掘削とする。掘削後、不陸が無いように人力床均しを行う。

2 埋戻工

- (1) 埋戻しは、片埋めにならないように注意しながら、厚さ 30cm 以下に敷き均し、1 層の仕上がり厚が 20cm 以下となるように締固めを行う。(現地盤と同等程度以上の密度となるように締固めを行う。)
- (2) 原則、铸铁管以外は管下 10cm 及び全ての管種においては管上 10cm まで、砂にて埋め戻しを行う。特に、管の下端・側部及び埋設物の交差箇所の埋戻し・突き固めは入念に行い、沈下の生じないようにする。
- (3) 埋設管（既存管を含む）の真上付近での転圧は、管に損傷・影響を与えないよう必要に応じて人力施工として十分に注意する。
- (4) 埋戻し材は、機械または人力にて投入し、ダンプトラックより直接投入しない。

3 水質確認

- (1) 通水切替え時または給水開始前までに行う管の通水洗管時に、味・臭い・色・濁り・残留塩素について確認を行なう。
- (2) 結果については、水質確認結果書（様式第 6 その 1、その 2）を提出する。

4 水圧試験

- (1) 通水切替え時または給水開始前までに行う。管内の洗管、充水後に試験水圧 0.74Mpa を加え、2 分以上保持し、5 分後の水圧が 0.60Mpa 以上を合格とする。
- (2) 水道配水用ポリエチレン管の水圧試験については、融着後クランプを外せる状態になってからφ100 の場合は 30 分、φ150 の場合は 45 分経過してから水圧試験を行う。管内の洗管、充水後に試験水圧 0.75Mpa まで加圧し、5 分間経過後、0.75Mpa まで再加圧する。その後、0.50Mpa まで減圧し、1 時間後に 0.40Mpa 以上保持すれば合格とする。
- (3) 結果については、施設検査記録簿（様式第 6 その 1、その 3）で提出する。

- (3) 既設管が鋳鉄の場合、穿孔部に防食コアを設置し、挿入機は同一のメーカーのものを使用すること。~~する。~~
- (4) サドル付分水栓の施工部には、製品付属のポリエチレンスリーブを被覆する。

9 不断水式仕切弁の設置

- (1) 設置位置は、施工前に試掘等の調査を行ない監督員と十分協議のうえ決定した場所とする。
- (2) 不断水式仕切弁の施工部には、製品付属のポリエチレンスリーブを被覆する。
- (3) 既設管に本体を取り付けた後の穿孔作業前に、水圧試験を実施する。試験方法については、試験水圧 0.74Mpa を加え 2 分間放置後の水圧が 0.70Mpa 以上を合格とする。

10 仕切弁設置工

- (1) 仕切弁は設置前に弁体の損傷のないことを確認するとともに弁の開閉方向を点検し開度「閉」の状態を設置する。
- (2) 仕切弁の据付けは、鉛直または水平に据付ける。また、据付けに当たっては重量に見合ったクレーン又はチェーンブロック等を用いて、開閉軸の位置を考慮して方向を定め安全確に伴う。
- (3) 開度計の取付けられた制水弁は、開度計を汚損しないよう特に留意し、布等で覆っておく。

11 消火栓設置工

- (1) フランジ付き T 字管の布設に当たっては、管芯を水平に保ち支管のフランジ面が水平になるように設置する。
- (2) 消火栓及び補修弁の設置に先立ち、弁の開閉方法を確認するとともに、弁体の異常の有無を点検する。
- (3) 設置完了時には、補修弁を「開」とし、消火栓は「閉」とする。

12 水道用急速空気弁設置工

- (1) 空気弁及びフランジ付き T 字管の布設に当たっては、11 消火栓設置工による。
- (2) 設置完了時には、空気弁は「閉」とする。ただし、通水後の空気弁は「開」とする。

13 排水設備工

- (1) 排水設備の仕切弁の設置に当たっては、10 仕切弁設置工による。
- (2) 排水設備の設置場所は、一般に管路の凹部付近で河川、又は排水路等のあるところとする。
- (3) 放水素面が管底より高い場合は、排水 T 字管と吐き口との途中に必要な応じて排水ますを設ける。

14 水管橋

水管橋等の架設については、水道工事標準仕様書【土木工事編】（日本水道協会）を適用とする。
なお、別に特記仕様書で定める場合は監督員と協議をすること。

15 推進工

推進工は、標準仕様書—土木工事標準仕様書—愛知県建設局第9編下水道編及び水道工事標準仕様書【土木工事編】（日本水道協会）を準拠する。

16 立坑工

立坑工は、管路土工、土留工、ライナープレート式土留工、鋼製ケーシング式土留工、その他これに類する工種について定める。

標準仕様書—土木工事標準仕様書—愛知県建設局第9編下水道編及び水道工事標準仕様書【土木工事編】（日本水道協会）を準拠する。

17 軌道下横断工

工事に先立ち、当該軌道の管理者と十分な協議を行い、安全、確実な計画もとに、迅速な施工する。水道工事標準仕様書【土木工事編】（日本水道協会）を適用

18 溶剤浸透防止スリーブ被覆工

- (1) 溶剤浸透防止スリーブ被覆工は、埋設される水道配水用ポリエチレン管の管路表面すべてに行わなければならない。
- (2) 溶剤浸透防止スリーブ被覆の施工は、配水用ポリエチレンパイプシステム協会発行の維持管理マニュアルの 8.3 溶剤浸透防止スリーブの設置方法によるものとする。